青山学院大学大学院
国際マネジメント研究科
イブニングコース

①　30 代後半　会社員　課長（2025 年）

1　出願書類・研究計画書

⑴　デイタイムコース、イブニングコース　共通課題

ABS への入学志望理由について記述し、特に MBA の取得を自身のキャリアにどのように活かそうと考えているか述べなさい（A4 用紙２ページ以内）。

答案再現

私のキャリアゴールは、自社の変革を推進する経営幹部として、新規事業を〇〇規模へ拡大し、「世界中の人々の〇〇」に貢献することである。このキャリアゴールを達成するためには、〇〇年間培った営業の専門性に加え、経営全般の知識を体系的に習得し、全社視点で戦略を描き実行する力が不可欠であると考えている。そのために経営学修士（以下、MBA）取得を決意し、特に青山学院大学大学院国際マネジメント研究科（以下、ABS）での学びが最良の選択であると考え志望した。以下では、これまでの経験を踏まえ、なぜ MBA、なぜ ABS を志望するのか、そして学びをどのように活かすのかを述べる。

私の経歴

〇〇年、〇〇株式会社に入社し、〇〇・〇〇の大手〇〇業を担当。入社３年目に〇〇、５年目には〇〇といった業績責任の大きい顧客を担当した。数ある取引先の中で、部門シェア〇〇％程度のメーカーが取引優先度を高める方策を模索し、従来の関係維持型営業から脱却。購買データや市場分析を活用し、先方課題の解決に直結する提案を実施した。その結果、〇年連続目標比〇〇％を含む売上と利益の向上を実現した。この成果は社内における営業戦略の見直しを促す契機となり、自身も社長賞を〇回、最優秀営業賞を〇回受賞し、〇〇年には課長へ昇格した。

〇〇年〇〇月に異動となり、現在まで〇〇部にて〇〇の営業窓口として、〇名の営業担当のマネジメントと戦略立案に従事している。

なぜ MBA か

現代は VUCA の時代であり、環境変動や前例のない課題に柔軟に対応する力が求められる。私が所属する〇〇株式会社も、新規事業の拡大を通じて事業ポートフォリオの変革を進めている。私は営業領域で一定の成果を上げてきたが、新規領域を探索するために挑戦した海外事業では、現地の法規制や市場環境の把握不足から進出機会を逸した。また商品開発では、マーケティングプロセスの理解不足により、３年を要した計画を頓挫させてしまった。これらの失敗の根本要因は、営業スキルに偏重し、事業全体を俯瞰して意思決定する力が不足していたことにあると考えている。したがって、マーケティング、ファイナンス、組織論といった経営全般のハードスキルを体系的に学び、全社視点で戦略を描き実行する力を身につけることが不可欠である。また、多様な業種・職種の学生と協働することで、自社の枠を超えた発想力を磨けると考え、MBA 受験を決意した。

入社以来、営業の最前線で成果を追求してきたが、チームを率い、より広い視野で事業戦略を考える立場となり、これまでの現場での成功体験だけでは乗り越えられない壁に直面している。自身の思考の基盤を刷新し、次のステージである経営層へと駆け上がるためには、一度立ち止まり経営の原理原則を体系的に学ぶことが必要である。これまでの〇〇年間で培った実践知がある今だからこそ、MBA での学びを最も効果的に血肉化できると確信している。

なぜ ABS か

数ある国内 MBA の中でも、ABS はグローバルスタンダードに準拠したプログラムを提供しており、私のキャリアゴール達成に最も適した選択肢である。以下に、その具体的な志望理由を３点述べる。

第１に、「経営全般を基礎から体系的に学べるカリキュラム」である。ABS では、経営の主要領域を網羅した必修科目を通じて、基礎から応用へと段階的に修得できる。私はこれまで独学や他校の単科講座で学習を重ねてきたが、MBA 進学を機に経営ジェネラリストとしての基盤を本格的に築きたいと考えている。具体的には、経営戦略、競争戦略、アカウンティング基礎、戦略的マーケティングといった科目を通じ、営業に偏った知見を経営全般へと拡張し、戦略的意思決定力を養うことを目指している。

第２に、「青山アクション・ラーニング（以下、AAL）による実践的学び」である。AAL は１年次に習得した理論を実際の経営課題に適用する実践型プ

ログラムであり、経営者視点での意思決定力を養う上で唯一無二の価値がある。具体的には、米国カーネギーメロン大学との合同経営シミュレーション「マネジメント・ゲーム」や、新規事業のビジネスモデル構築から資金計画の策定までを行い、ベンチャーキャピタルから実務的評価を受ける「ビジネス・プランニング」の受講を希望している。私のキャリアゴールを実現するためには、基礎知識の習得に加え、それを実践に移す経験が不可欠である。その点、ABS は海外ビジネススクールと同様に修士論文を必須とせず、AAL のような実践型プログラムに十分な時間を割ける点は大きな魅力である。

第３の理由は「国際性と多様な人的ネットワーク」である。ABS はアジア太平洋地域を中心に海外ビジネススクールとのネットワークが充実しており、海外研修や国際マネジメント科目を通じて、異文化環境下でのマネジメント力を磨くことができる。私は海外事業での失敗経験を踏まえ本年、〇〇の海外派遣プログラムに参加した。プログラムの舞台は〇〇であり、現地フィールドワークを通じて社会課題の解決につながる新規ビジネスモデルを提案するものであった。異なる事業会社や部署から集まった多様な価値観や経験を持つメンバーと未知の市場に挑む中で、それまで単一事業や職種に限定されていた自身の視野が大きく広がり、グローバルな経営視点の重要性を強く実感した。ABS には、このような国際的ビジネスを模擬体験できるプログラムが数多くあり、私はこの経験を基盤としてさらに実践力を高め、自身の成長を加速させたいと考えている。

上記３つの理由から ABS は私にとって単なる知識習得の場ではなく、理論と実践、国際性を兼ね備えた最適な学びの環境であると確信している。また、私が営業現場で培った交渉力や〇〇業界に関する知見は、ケースディスカッションにおいて、理論だけでは見えない実践的な視点を提供し、議論の深化に貢献できると考えている。入学後は、自身の学びを深めると同時に、多様な学生と互いに高め合い、共に成長していきたい。

キャリアへの活用

ABS で得た理論と実践力を融合させ、自社にとどまらず社会全体の変革を推進する創造的リーダーとして成長することを目指す。短期的には、国内外の市場環境を踏まえた事業戦略の立案や新規事業開発をリードし、実務で確かな成果を上げる。中期的には、新規事業〇〇を〇〇規模へ拡大させるため、海外事業会社の経営層としてマネジメントを担う。そして長期的には、企業の持続的成長と社会的価値創造を両立させる経営を実現し、「世界中の人々の